

「2024年度バルセロナ大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学工学部2年 村瀬 悠花

今までの自分のコミュニティでは絶対会うことのなかった海外志向の高い（留学意欲がある、海外の人と交流したい）人たちや海外経験（留学、海外旅行、ボランティア）の多い人たちに囲まれて生活したおかげでスペインだけではなく海外で経験した各国の面白い文化や考え方を知り、よりもっといろんな国に行きたいと思うようになった。

今まで自分は海外の文化や考え方の違いなどに興味があるから海外の人と交流や実際に海外に行くことをしたいと思っていたが実際に様々な国の人と交流したりスペイン語、カタルーニャ語を学ぶことでそれだけではなく言語学ぶことや使うことの楽しさも経験できた。また話そうとするとときにどのような表現をすればいいのか思い浮かばず詰まってしまう、もどかしいことが多く、堂々と英語やスペイン語を話して、交流している参加者の姿を見て自分の語学力の低さが恨めしくなった。やはり言語は文法や語彙の知識だけでなく実際にたくさん使わないと使えないし、継続的に勉強を続けることが重要だと感じた。これらの理由により言語を勉強するモチベーションが非常に上がった。来年は留学生と交流できるコミュニティに属したり、今まで勉強したことのない言語に挑戦してみたりしようと思う。

Milà i Fontanals 学校の訪問では移民の子が多く、多様な国籍の児童たちが一緒に無邪気に楽しそうに遊んでいたり、せまい校庭をある一つのグループが占有するのではなくバスケットボールやサッカーを同じ場所で同時にやっているのが衝撃的だった。コンサートの時もみんな楽しそうに自信満々に演奏していて見ているこちらが幸せな気持ちになった。世界では民族や宗教、国籍の違いで大小さまざまな争いが起きているがこの学校のように誰にも共通に開けている芸術（音楽）を通じて国籍を超えて一体となれることが伝わってきた。この学校のように幼い時から様々なナショナリティに触れながら生活していくことは多文化の理解につながると思う。移民の少ない国（日本など）ではそういった機会も少ないので現代の技術などを使ってより幼少期から異文化交流していくことができた方がいいのではとも考えた。

日本とは全く異なる景観や食事、生活習慣、文化に驚き感動するとともに日本に取り入れたらよりよくなると思うものも多々あった。例えばスペインでは飲食店でお昼からお酒を飲みながら楽しそうにお話ししている人が多いことである。日本では家族でご飯を食べに来ていても個々人がスマホを見ていて、ただ黙々と食べているのもよく見かけるし、仕事の打ち合わせなども食事をしながらというのは少ない。それを許してくれる社会の風潮やおいしい食事をゆったり楽しみながら時間をかけて話すことで得られる幸せや信頼関係などを大切にしているその文化は精神生活を豊にする上でとても重要だと思う。また日曜日は基本的にお休みの日であるということも挙げられる。勤勉に働くことがよしとされ休日返上で自分や家族との時間を削って働いている人が多い日本とは大きく異なる。プライベートの時間を確保し充実させることは心の健康や仕事のモチベーションにも重要である。日本もスペインのように休日を多くの人に確保し、人とのコミュニケーションや趣味を各人が楽しむことができるようになれば国民の幸福度も上がるのではないかなと思う。ほかにも道案内の矢印↓がまっすぐ進む意味ということや大型犬が多いこと、出口の標識が日本の非常口の表示と似ていることなど生活の中でも多く気になることがあった。これらの異なっているまたは共通している理由や由来を考えてみることも面白そうだと思う。

今回のプログラムでは逆に日本の良さも実感することができた。今まで日本の経済や食の安全保障といったネガティブな問題や堅苦しく生きにくい国民性にばかり注目し、日本を卑下し海外への羨望が強かった。しかし実際に海外に行ってみると町の汚さやホームレスの多さ、スリ、盗難、ぼったくりの多さやコンビニなどがない不便さを目の当たりにし日本の秩序、安心して暮らせる社会のすばらしさが身にしみてわかった。